



この講座はゆとり都カレッジに参加しています。

平成30年度山形大学公開講座「人文社会科学部」

平成30年度 | 山形大学公開講座[人文社会科学部]



募集人員

一般市民・大学生・高校生 30名

募集期間

平成30年5月9日(水)～5月31日(木)

受講料

2,000円(大学生・高校生は無料)

お申し込み方法

下の「払込取扱票」に記入の上、受講料の振り込み手続きをしてください。通信欄には、職業、年齢を記入してください。先着順に受け付け、受講証をお送りします。なお、大学生・高校生は、メールあるいは電話で、住所、氏名、電話番号、年齢を下記の問い合わせ先にご連絡ください。

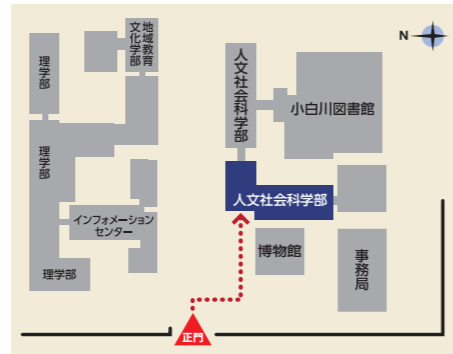
お問い合わせ先

〒990-8560 山形市小白川町1-4-12 山形大学人文社会科学部事務室
TEL:023-628-4203 E-mail:jisoumu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

会場案内

山形大学人文社会科学部/
1号館1階103教室

大学正門に入って正面の建物です。
受付は人文社会科学部玄関にて行ないます。



その他

【公共交通機関ご利用のお願い】

現在、山形大学小白川キャンパスでは、駐車場が非常に手狭になっております。公開講座当日はできるだけ公共交通機関、または本学シャトルバス(山形駅～小白川循環・料金100円)のご利用をお願いいたします。

シャトルバス運行時刻表

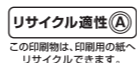
<http://www.yamagata-u.ac.jp/jp/life/etc/bus> 参照

なお、山形駅行き最終便は18:40発となっております。
また、山交バス県庁前▶山形駅前行きの最終便は、南高前バス停19:42発、山形～仙台間高速・都市間バス山形駅行き最終便は、南高前バス停23:24発です。

この受領証は、郵便局で機械処理をした場合は郵便振替の払込みの証拠となるものですから大切に保存してください。

ご注意
この払込書は、機械で処理しますので、本票を汚したり、折り曲げたりしないでください。

この場所には、何も記載しないでください。



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

記憶との対話

Dialogue with memory

ことばと イメージ

平成30年

6.4 - 21

講義時間—毎回 午後6時30分～8時10分(計5回)

場 所 山形大学人文社会科学部 1号館1階103教室
対 象 一般市民・大学生・高校生 定員30名
受 講 料 一般 2,000円 大学生・高校生は無料
募集期間 平成30年5月9日(水)～5月31日(木)

第1回 都の記憶
6.4 [月] — 日本古代都城のその後 —
准教授(人文社会科学部) 十川 陽一

第2回 「エラー」と「バイアス」だらけの記憶
6.7 [木] — 記憶と解釈の認知心理学 —
准教授(人文社会科学部) 大杉 尚之

第3回 モニュメントと記憶
6.11 [月] — 古代アンデスの神殿・地上絵・都市 —
教 授(人文社会科学部) 坂井 正人

第4回 いかにして記憶はアートになるか
6.18 [月] — クリスチャン・ボルタンスキーの場合 —
准教授(人文社会科学部) 合田 陽祐

第5回 記憶を創る、記憶が創る
6.21 [木] 講 師(人文社会科学部) 柿並 良佑

【お問い合わせ先】 山形大学人文社会科学部事務室

電話:023-628-4203 E-mail:jisoumu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

記憶との対話

Dialogue with memory

ことばとイメージ

人類はこれまで、自らの体験や地域の出来事をことばやイメージによって記録してきました。遺跡や芸術、歴史などの文化は、個人や社会、民族、国家の記憶を後世に伝えるためのひとつの有力な手段であったと見ることもできるでしょう。しかし同時に、過去を記録したそれらのことばやイメージが、つねに実際に起こったことの忠実な記録や再現となっているかといえば、必ずしもそうとは言いきれません。それら「記憶の痕跡」には、さまざまな歪曲や現代の受け手側による解釈の問題がつきまとうことが知られています。

山形大学人文社会科学部には人間の活動や文化を研究する専門家が各分野、地域ごとに揃っており、日々学

第1回 4月 都の記憶

— 日本古代都城のその後 —

准教授(人文社会科学部主担当) 十川 陽一



古代の日本では、度重なる遷都が行われ、大規模な都城がいくつも生み出されました。こうした都城は、遷都して廃都となった後はどうなるのでしょうか。また、明治にいたるまで都であり続けた平安京(京都)は、戦乱や人々による造り替えによって都城としての姿はほとんど失われてしまっていますが、古代以来の都であったという記憶は、どのように残されていたのでしょうか。この講座では、主に平城京・長岡京・平安京を取り上げ、記憶の中の古代の都を探ります。

第2回 7月 「エラー」と「バイアス」だらけの記憶

— 記憶と解釈の認知心理学 —

准教授(人文社会科学部主担当) 大杉 尚之



私たちは「見たこと」や「聞いたこと」をどこまで正確に覚えているのでしょうか。私たちは「記憶の痕跡」を自分にとって都合の良いように解釈し、つじつまが合うように事実を歪めてしまいます。これは、人間の心に備わっている「自動システム」と「意図システム」の二重のシステムの情報伝達ミスによるものです。「錯視」、「目撃証言」、「選択の見落とし」など様々な具体例をあげながら「エラー」や「バイアス」だらけの人間の心の仕組みについて説明します。

第3回 11月 モニュメントと記憶

— 古代アンデスの神殿・地上絵・都市 —

教授(人文社会科学部主担当) 坂井 正人



この講座では古代アンデス文明に成立した諸社会(形成期社会、ナスカ社会、インカ社会など)に注目して、これらの社会において建設された神殿・地上絵・都市を取り上げます。動物の図像表現で彩られた神殿、動物の形をした地上絵、巨大な建物が並ぶ都市は、当時モニュメントとして扱われていたと考えられます。これらのモニュメントが、当時の人々に何を思い出させ、どのような社会的記憶を作り上げたのでしょうか。こうした記憶のあり方を再検討することによって、古代アンデス文明の特徴について論じたいと考えています。

際的な研究を進めています。そこで本講座では、心理学、文学、歴史学、文化人類学、表象文化論の専門家が「記憶との対話」をテーマとして、人間の精神や文化をそれぞれの立場から分析します。ことばとイメージはどのように過去の記憶を留め、文化となるのか、またそれらは現代のわれわれとの間にどのような対話(相互作用)を生み出すのか — これらの問いを通して、人文社会科学部の多様な活動内容と研究成果の一端をご紹介します。

第4回 18月 いかにして記憶はアートになるか

— クリスチャン・ボルタンスキーの場合 —

准教授(人文社会科学部主担当) 合田 陽祐



フランスの現代アーティスト、クリスチャン・ボルタンスキー(1944～)の作品を見ながら、写真やオブジェ、モニュメント制作を通じた記憶の表象の意義を学びます。ボルタンスキーの作品は、自らの幼年時代や、死者の集団的記憶など、かつてそこにあったけれど、現在では散逸したり忘れられた対象を再構成したものです。彼の作品自体が、そうした「過去の痕跡」として提示されるわけです。ですがそこには、思い出の蒐集や再現によって、失われた起源を回復するのとは、いささか異なる運動性が見られるのです。この点を掘り下げて考えてみます。

第5回 21月 記憶を創る、記憶が創る

講師(人文社会科学部主担当) 柿並 良佑



普通、私たちは何らかの出来事の記憶を「持っている」と思っています。ですが、まず出来事や事件があって、それにもとづいて記憶が出来上がる、というのは本当でしょうか。私たちはどこかで記憶を「創る」となみをしているのかもしれませんが。「文化」と呼ばれる領域ではそうしたことが意外に多くあるのです。哲学、精神分析、表象文化論といった分野の知見を通じて、私たちがなげなく使っている「記号」や「歴史」のメカニズムを原理的に問い直しながら、記憶こそが創り出す出来事の世界、すなわち「私たち」そのものへと迫ってみたいと思います。

02		払込取扱票				通常払込料金 加入者負担	
口座記号番号						金額	
022607		92478		千 百 十 万 千 百 十 円		2 0 0 0	
加入者名		国立大学法人山形大学		料金		備考	
通		*「記憶との対話：ことばとイメージ」申込書					
信		※この払込用紙は、1人1枚をご使用ください。(人文社会科学部)					
欄		○職業をお書きください。()					
		○年齢をお書きください。()					
		※払い込み済みの受講料は返金できませんのでご注意ください。					
		※個人情報の利用について 提出いただいた書類の個人情報は、本公開講座の参加に関する手続きのみに使用し、第三者に開示・提供・預託することはありません。ただし、ご承諾いただける場合は、今後の公開講座やセミナー棟のご案内を本学からお送りする場合がございます。 <input type="checkbox"/> 承諾する <input type="checkbox"/> 承諾しない (いずれかをチェック願います)					
ご依頼人		おなまえ		様		日附印	
		(電話番号)					
		裏面の注意事項をお読みください。(ゆうちょ銀行)		(承認番号仙第8982号)			
		これより下部には何も記入しないでください。					

振替払込請求書兼受領証							
口座番号		022607		92478		通常払込 料金加入 者負担	
加入者名		国立大学法人山形大学					
金額		千 百 十 万 千 百 十 円		2 0 0 0			
おなまえ		様					
ご依頼人		様					
料金		日附印					
備考							

各票の※印欄は、ご依頼人において記載してください。

切り取らないでお出しください。